

製本のススメ

Vol. 211

ようやくマスク生活から解放されたように思えますが、ここまできると政府のお言葉は信頼性に欠けますね。コロナの3年間は私たちの生活をすっかり変えてしまいました。特に若い世代はマスク無しでは暮らせないという人も出始めています。ワクチンを打っても感染しない訳ではありませんので まだまだ注意が必要です。

今回は**加工用損紙**の話し

最近印刷量が減り少部数の注文が増えています。そうになるとオンデマンド印刷の活躍する場が広がるのですが、ここで注目したいのが実数以外の印刷枚数です。

一般的には実数の3%~5%と言われていたますが、それは少なくとも5000冊以上の実数に対して見込まれる損紙（加工予備）の場合です。**1000冊以下の実数ともなると加工仕様によってその必要枚数は変わります。**単純に中綴じ加工と無線綴じ加工では、**加工工程数が変わります。**例えば「中綴じ8ページ（2折/2台）」とした場合折工程で2回・中綴じ工程で2回・仕上げ断裁工程で1回の5工程があり各工程で5枚の不良が出たとすると25枚（それぞれのページごと）要る計算です。

これで実数が500部だったとすれば加工予備は25%という計算が出てきます。無線綴じであれば工程数はもっと増えますし中綴じであってもページ数が増えればその枚数は増えていきます。**上製本に至っては1冊の加工に30工程以上の場合が有り50冊の上製本を作るのにその加工方法によっては100冊程度の加工予備が必要な事は当たり前になります。**オンデマンド印刷は1枚あたりの金額が加算されますがその予備枚数を考えるとどちらが安価なのかは難しいところです。

むろん加工先もなるべく不良の無いように作業はしています。しかし機械のセットをするのにも必要な枚数があり、印刷予備が少ない製本はかなり難しく、今後は割増料金の対象にもなってくるでしょう。

また**納本用にも刷り本は必要です。**刷り本の枚数が限定されてくればおのずと加工予備・納本の冊数も減りますね。加工会社と相談の上印刷予備枚数を決められると良いかもしれません。



Tea break

既にお知らせさせて頂いておりますが、1月請求分より最低基本価格と包装手数料の見直しをさせて頂いております。社内加工賃については4月分請求分（20日×は3月21日・月末×は4月1日）より見直しをさせて頂きます。何卒ご理解を賜りたく存じます。

弊社HPは www.isekiseihon.com

facebookは「井関製本の日々」

by (株) 井関製本